

SHIMOMURA OSAMU

KOJIMA SUSUMU

# 下村脩 × 小島進

〈生物学者・2008年ノーベル化学賞受賞〉

〈深谷市長〉

2008年にノーベル化学賞を受賞された下村脩先生と小島市長が対談！  
対談では、下村先生と深谷との縁をつないだ渋沢栄一翁のこと、  
そして、これからの深谷の未来を担う子どもたちへ  
貴重なメッセージをいただきました。



**小島市長** 栄一翁は恐らく輪八郎さん達と一緒に、日本はこうあるべきだとか、こうしなくちゃいけないというのを、何日も何日も語ったと思うんですよ。そして、先生にもそういう血と何かDNA Aが流れているんじゃないかと。

**子どもが持つ『可能性』**  
**伸ばすのは大人の役目**

**小島市長** わたしは栄一翁、深谷の子どもたちと話をすることができ



下村脩（生物学者）

1928年、京都府福知山市生まれ。2008年に緑色蛍光たんぱく質の発見と開発により、ノーベル化学賞を受賞

ど、この間は下村先生とお会いすることを話しました。やっぱり地域に誇りを持つてもらいたいし、この深谷から世界に影響を与えるような人が出てくれればほんとに素敵なことだと話をしたんです。先生、そういう若い子たちに何かメッセージのようなものはないでしょうか。

**わたしが特別なのではなく  
ノーベル賞をとる可能性は  
誰にでもあるのです（下村）**

に匹敵する仕事は誰にでもできるはずですよ。その可能性は誰にもあります。  
**小島市長** 可能性は誰にでもありますよ。先生はおっしゃいましたが、そのために市役所は、そのスタートラインまでみんなを連れていかなければならない役目があります。生まれつき障害があったり、生活環境に問題があるお子さんが、可能性のスタートラインに立てないなんて悲しいことじゃないですか。だから少なくともスタートラインには全員を連れて行くこと。そこからは先生のおっしゃるように各自の努力如何だと思っております。

**栄一翁がつなぐ  
下村先生と深谷の縁**

**小島市長** 下村先生、本日は米国マサチューセッツから深谷までお越しいただきまして、ありがとうございます。

聞くとこちらによりまして、お墓参りして深谷にお越しになられたそうですね。  
**下村先生** 父が大伯父と書いていたので、わたしのひいおじいさんの兄がこちらに葬られております。

**可能性のスタートラインに  
全ての子どもを導くこと  
それが市の役割です（小島）**

があり、今回はご任職にも大変お骨折りをいただきました。  
**小島市長** わたしはそのお墓参りのお話を伺って、とても感動しました。ご先祖を大切に思う気持ちは日本人らしいの最たるものとおわたりは思っています。長年米国に住んでいらっしゃる先生にそういうお気持ちがあるのを知って、失礼ですが不思議な感じがしますか感動を覚えました。



を楽しみにしていました。

**小島市長** 栄一翁とは、なんでも剣道で接点があったとか。

**下村先生** 輪八郎は江戸へ出て、御徒町の伊庭道場というところで修行をしていて、そこで尾高長七郎さんや渋沢栄一さんと一緒だったそうです。栄一さんはある意味、弟弟子だったと父が話していました。

**小島市長** 栄一翁の語りを口述筆記した『雨夜譚』という本がありますが、この中で『長七郎は度々江戸の友人の書生たちを血洗島に連れてきては「慷慨憂世」の談論をした」とありますから、ひよっとすると輪八郎さんも血洗島に来ていたかもしれませんね。

**下村先生** 栄一さんが輪八郎のことを「輪さん」と呼んでいたことも聞いたことがあります。

**小島市長** そういって今、先生が目前にいるのだから不思議なものですね。先生は栄一翁について何か思いはおありでしょうか。

**下村先生** 偉い人ですよ。ほんとに偉い人ですね。ノーベル賞なんか比べものになりませんよ。ほんとに偉い。この日本を作った人ですよ。現在の日本をね。



わたしは、この深谷が大好きで、この深谷に生まれ育った人間でもありますので、ぜひ深谷の子どもたちにもノーベル賞を取ってもらいたいし、仮にノーベル賞が取れなくてもノーベル賞に向かって努力する子どもたちを、一人でも多く作りたいなと思います。

**下村先生** わたしも、何かやりたいの『何』はどれでもいいので、人がやらない、人として生まれたからには何か一つくらいやってみたいという気はありましたね。誰でもあると思うんです。周囲の大人は、そこをちょこっと伸ばしてやれればいいんですよ。

OBAYASHI NOBUHIKO

KOJIMA SUSUMU

# 大林宣彦 × 小島進

〈映画作家〉

〈深谷市長〉

深谷シネマ名誉館長である大林宣彦監督が、深谷シネマとの関わりを通して感じる『深谷の魅力』について小島市長と語り合いました。日本全国のさまざまな『まち』や『人』を見てきた監督の目に深谷のまちや人は、どのように映っているのでしょうか。

\*竹石研二さん=NPO法人市民シアター・エフ理事長



大林宣彦 (映画作家)

1938年、広島県尾道市生まれ。全国各地の『ふるさと』を題材に映画を制作する『ふるさと映画』の巨匠

ない訳でね。深谷の映画館を作る時、竹石さんはまず人を集めてそしてみんなが映画を見たいなんてなって、銀行跡で映画館を始めた。それが正しいんです。  
**小島市長** 一番大切なのは、『人』なんですよね。  
**大林監督** 映画館を、映画好きの特殊な場所みたいにするのではなく、まず深谷市民が集まる場所を作る、それを実現されたのが深谷なんです。だから今も、深谷シネマに人がいっぱい集まることは、本当にもの道理なんです。

映画で、花や木の好きな人は花や木が集まって、というように、『みんなが一緒にまちづくりをやっている』って、こういうパワーをどうも感じるので。  
**大林監督** 深谷シネマが現在の場所に引越す前にも、わたしは呼ばれましたが、あの映画館を存続させるってメンバーに必ず行政マンと市民とが一緒になっていましたよね。それがとても貴重なんです。まちづくりと映画づくりは全く一緒でね、人が集まって、一緒に汗をかいて、楽しくなければ、良いものはできないんです。深谷は、そういう『まちづくりを支える人』を生む、素晴らしい

深谷は、まちづくりを支える人を生む素晴らしいまちなんですよ (大林)

らしいまちなんですよ。  
**小島市長** 本当にその通りだと思えます。まちづくりで市民と行政は、『パートナー』ですから、どちらが欠けてもつまらないです。ともに力を合わせていかなないと成功しないと思っています。  
そしてまちづくりは、今だけのことでなく、ずっと未来まで続いていくことです。『みんな一緒にまちづくりをやっている』って、パワーを、若い世代から年配の世代まで、幅広く共有していくことが必要不可欠です。特にこれからは若い世代のかたに、そのパワーを広げていきたいですね。  
**大林監督** 市長さん、実は我々のような年配の、いわゆる『年寄り』たちは、若い人から『うやましがられる存在でなければいけませんよ。僕たち大人がね、面白がって何かをやっている、若い彼らはうらやましがっている、それ、さらにそれを乗り越えてくれるんです。』

**小島市長** そうですね。未来の深谷を担っていく若い世代には、



ぜひ自分から積極的に、まちづくりにかかわってもらいたいし、そのためには、監督のおっしゃる通り、わたしたち大人が夢中になって楽しくやっている姿を見せていかないと。  
**大林監督** そうすれば、若者たちは、楽しんで、面白がって、自然に我々の続きをやってくれますよ。追い越して行ってくれますよ。『あなれば、楽しそうだな人生は』というふうに、大人がまず示すことが大事なんです。だから、市長さん見ると、市長になるのもいいな。いや、ほん

大林宣彦監督の自慢のまち『深谷』

**小島市長** 大林監督、『ふるさと』しております。本日はお忙しいところ、ありがとうございます。  
**大林監督** 東京のわたしの事務所まで、ようこそお越しくださいました。

**小島市長** 今日は、深谷から新鮮なユリを持ってきました。日本一のユリです。

**大林監督** まあ、本当に立派なユリで驚きましたよ。ありがとうございます。

**小島市長** 深谷には、こうした全国トップクラスの農産物がたくさんあります。でも、住んでいると、それが当たり前だから、どれだけのすごいか、なかなか気が付かないんです。

**大林監督** そう、市長さんのおっしゃるとおり、そこに暮らしている人には当たり前のことって、良さがわからないんです。  
**小島市長** わたしは、自分が生まれ育った深谷のまちが大好きです。自

一緒にまちづくりをやっていこうっていうパワーを感じるのです (小島)

慢のまちです。恵まれた自然環境やおいしい農産物、温かい心を持った人がたくさんいる、そんな深谷の魅力って、住んでいると当たり前なんだろうけど、だからこそわたしは、声を大にしてみんなに伝えていきたいですね。『深谷ってすごいところだよ』って。  
**大林監督** わたしは、『ふるさと映画作家』として、日本のいろいろな『ふるさと』を訪ねています。いろいろな思いがありますけど、本当に深谷というまちは、わたしにとっても自慢のまちですよ。  
**小島市長** ありがとうございます。全国のいろいろなま



ちを見ていて監督からそう言ってもらえると、本当に嬉しいです。  
**大林監督** そして、深谷シネマというのは全国で一番成功している、一番貴重な、街なかの映画館なんです。  
**小島市長** あの辺りは、わたしが小さい頃によく遊んでいたところなんです。だから深谷シネマに監督が来たときは、本当に感激しました。  
**大林監督** あんなに成功している街なかの映画館はないですよ。わたしのホームタウンの尾道も、深谷から学んで作ったのですが、なかなかうまくいってない。というのは、映画館とはまず、『人が集まる』ところってなくはない。人が集まってみんなで楽しまなければ意味が